

台風 19 号の影響にて業況悪化

10月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

ほぼすべての業種で台風19号について触れており、その被害の大きさがうかがえる。特に非製造業（小売業で約3年半ぶりに「雨」、サービス業で1年ぶりに「小雨」を記録）において顕著にあらわれている。また、鍍金、印刷、電気工事に消費税増税による駆け込み需要の反動減がみられる。

製造業	食料品		パンは、台風19号と水害による臨時休業の影響で売上減少。菓子は、台風の影響で客足は落ちたが、前年並みを維持。製麺は、大手の寡占化に伴う商圏の縮小や天候不順による荷動き鈍化により業況悪化。酒造は、久しぶりに売上が前年を上回る。食肉は、豚コレラの影響は出ておらず豚のと畜頭数が好調。
	繊維・同製品		桐生織物は、婦人服地が梅春物の受注・生産の時期に入り、和装織物は端境期にて低調、輸出向けも低調に推移。伊勢崎織物は、インテリア関係の広巾織物が好調。ニットは、店頭での売れ行きが悪く、売上・収益ともに悪化。繊維製品は、取引先の倒産や業況の悪化を受け、非常に厳しい声が聞かれる。
	窯業・土石製品		砕石は、台風19号の影響により多くの地域で設備操業度が低下するなどの影響が出ている。コンクリートブロックは、今後の原材料価格高騰を懸念している。生コンは、出荷量の4割を占める県中部での大型物件が少なく低調に推移。砂利は、出荷量が微増しているが、運搬車が十分確保できず苦慮している。
	機械・金属		鍍金は、県外の取引先が台風19号で罹災したほか、消費税増税の反動減もあり受注量減少。自動車関連は、台風により大手メーカーが一時操業停止となった影響が出てくることを懸念している。電気関連は、災害復興の関係で需要が増加する見通し。半導体関連は、不調が継続しているが、今後に明るさが見られる状況。
	その他の製造業		紙加工品は、台風19号の農作物への被害により、野菜向けの需要低迷を懸念している。ゴム製品は、台風による大手メーカーの操業停止を受け業況が悪化している。木材は、原木価格上昇と販売価格低下により厳しい状況。印刷は、駆け込み需要の反動減により売上減少、来月から落ち着きを取り戻す見込み。
非製造業	卸売業		水産物卸は、台風19号の影響で不漁となり売上減少、厳しい状況が続くことを危惧している。農産物卸は、相次ぐ自然災害が青果物に大きな影響を及ぼしており、今後の品不足を懸念。卸団地は、業種によりバラツキがあり、消費税増税による大きなトラブルはみられないものの、人材確保に苦慮している。
	小売業		消費税増税や台風19号の影響が各所に及ぶ。燃料小売は販売量減少に伴い売上大幅減、生花小売も自粛ムードにて売上減少。商店街は、増税後の買い控えは軽微だが、消費マインドが低下してきており業況悪化。家電小売は、4Kテレビの価格下落が売上に影響。中古車オークションは、台風や水害の影響はみられない。
	サービス業		温泉旅館は、後半に盛り返したものの、台風19号が直撃しキャンセル続出となった前半の不振が大きく、全体的な業況が悪化傾向となる。伊勢崎地域における不動産取引は、区画整理が行われた郊外の取引が活発で、販売価格も若干好転している。建築設計・自動車整備は、売上・収益ともに前年並みに推移。
	建設業		建設工事は、一時的に集中する台風19号復旧工事への対応を不安視。解体工事は、空き家解体や大型商業施設改修などがあり、人手不足を外国人雇用にて対応。電気工事は、消費税増税の反動減により業況がやや悪化。塗装工事は、売上減となったが、今後の年末需要に期待感あり。鉄構は、見積件数が減少している。
	運輸業		台風19号や豪雨災害の影響でキャンセルや納期延期が発生したため、荷動きが鈍化し業況が悪化している。また、燃料価格は落ち着いているが、今後の高騰を懸念している。野菜関係は、台風の影響で配送量減少。小口配送は、食料品関係の依頼増加やイベント開催に伴う弁当配送の大口依頼があり売上増加。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 100.3(前月比▲1.4%)「県統計課・9月」
- 住宅着工戸数 1,003戸(前年同月比▲5.6%)「県建築住宅課・9月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.16倍・有効1.67倍「群馬労働局・9月」
 - 大型小売店販売額 211億円(前年同月比+7.9%)「経済産業省・9月」
 - 消費者物価指数(全国) 101.9(前年同月比+0.2%)「総務省統計局・9月」
- 〈鉱工業生産指数は27年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数〉